

# 鮠川西出B遺跡(第1次)発掘調査報告

1998. 3

三重県埋蔵文化財センター

## 序

埋蔵文化財は、祖先が残した貴重な文化遺産であり、現代に生きる私たちも責務として、これらを積極的に保護し後世に伝えていくとともに更なる文化の向上のための礎とすべきものであります。しかし、一方では地域経済の活性化あるいは住民生活の安全や向上のために、各種の公共事業も必要と考えられます。

三重県埋蔵文化財センターでは、文化財行政の一環として、各開発部局の事業を照会し、事業予定地域内の文化財の確認とその保護に努めてまいりました。しかし、どうしても現状保存の困難な部分については、発掘調査を実施し、記録の保存を図ってきているところであります。

ここに紹介します度会郡度会町所在の鮫川西出B遺跡は、県営ほ場整備事業および県営ふるさと農道整備事業の施工に先立つ事前協議の結果、発掘調査を実施し、記録保存されたものです。この発掘調査の成果が、消滅した遺跡に代わり、郷土の歴史・文化を伝えるものとして活用されていくことを切に望みます。

調査にあたっては、県農林水産部並びに伊勢農林水産事務所、度会町教育委員会、度会町産業課をはじめ、地元の方々にも多方面でのご助力をいただきました。心より感謝申し上げます。

平成 10 年 3 月

三重県埋蔵文化財センター

所長 奥 村 敏 夫

# 例 言

- 1 本書は、下記の遺跡の発掘調査報告書である。  
 鮎川西出B遺跡（度会郡度会町鮎川字西出所在）
- 2 本調査は、平成9年度県営ほ場整備事業（中川地区）および同県営ふるさと農道整備事業（度会北部地区）に伴って実施したものである。調査にかかる費用は、その一部を国庫補助金を受け三重県教育委員会が、他を三重県農林水産部と地元市町村が負担した。
- 3 調査は、平成9年度に行った。調査の体制は以下の通りである。  
 調査主体 三重県教育委員会  
 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課  
 技師 西村美幸  
 主事 山本義浩  
 主事 奥野 実  
 整理担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課・管理指導課
- 4 調査にあたっては、度会町在住の各位、度会町教育委員会、度会町産業課および県農林水産部農地整備課、農村振興課、伊勢農林水産事務所にご協力をいただいた。
- 5 執筆はⅡ章を山本が、Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ章を西村が担当し、遺物写真撮影及び全体の編集は西村が行った。
- 6 当地域の磁北は真北に対し6°20′西偏している。（平成6年度、国土地理院）当報告書では、磁北で測量したものを真北に換算して用いた。
- 7 写真図版の遺物番号は実測図の番号と対応している。写真図版は特に断りのない限り縮尺不同である。
- 8 当報告書での用語は、以下のとおり統一した。  
 つき・・・「坏」があるが、「杯」を用いた。  
 わん・・・「碗」・「碗」があるが、「碗」を用いた。
- 9 当報告書で用いた遺構番号は、通番となっている。（以下に言うpitを除く）また、番号の頭には、各遺構の性格により以下の略記号を付けた。  
 SB：掘立柱建物 SD：溝 SK：土坑  
 SE：井戸 pit：柱穴、小穴
- 10 当報告書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターに保管している。
- 11 スキャニングによるデータ取り込みのため若干のひずみが生じています。  
 各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

## 本文目次

I 前 言	(西村) …	1
II 位置と歴史的環境	(山本) …	1
III 調査の成果～層位と遺構～	(西村) …	3
IV 調査の成果～遺物～	(西村) …	10
V 結 語	(西村) …	20

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 遺跡地形図	2
第3図 調査区位置図	3
第4図 遺構平面図・土層断面図	4
第5図 SK3 平面・断面図	5
第6図 SB41・42、SK15 平面・断面図	6
第7図 SK20・21、SK32、SK16 平面・断面図	7
第8図 SK12、SK25・SD29 断面図、SE22、SE34 断面略図 B地区下層断面図	8
第9～13図 出土遺物実測図(1)～(5)	12～16

## 表 目 次

第1表 遺構観察表	9
第2表 旧石器時代出土遺物一覽表	9
第3表 出土遺物観察表(1)～(3)	17～19

## 図 版 目 次

図版1 SK3、SE34遺物出土状況、SE22、SD5石の集中地点、SB41・42、SK15、SK20・21
図版2 鎌倉時代の遺物、室町時代中葉以降の遺物
図版3 室町時代中葉以降の遺物

## I 前 言

### 1 調査の契機

鯉川西出B遺跡は、原営ほ場整備事業（中川地区）および県営ふるさと農道整備事業（度会北部地区）に係る分布調査で平成6年に確認され、平成9年1月29日に試掘調査を行った結果、溝・ピット等の遺構および中世土師器・鉄釘等の遺物が確認された。担当部局と協議の結果、保存不可能な部分4,200㎡について平成9・10年度に調査を行うことになった。試掘段階までは、里A遺跡と呼称されていたが、字名が誤っている事がわかったため、本調査にあたって鯉川西出B遺跡と改称した。遺跡番号は度会町（470-91）である。

### 2 調査の経過

#### (1) 調査経過概要

本年度は、東側の2,200㎡について、平成9年5月6日から7月31日にかけて本調査を行った。

調査に参加して頂いたのは度会町在住の方々である。ここに御名前を記し御礼申し上げたい。

大西一枝、大西春子、北村昭輔、京橋初代、京橋六郎、世古あさ子、世古幸子、世古たけ、世古三枝、永木茂子、中世古貞治、馬瀬章、馬瀬妙子、松井サワ、松井貞子、南弘、森文子、森本たきよ、森本平生（五十音順、敬称略）

#### (2) 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により文化庁長官あてに行っている。

・法第57条の3第1項（文化庁長官あて）

平成9年4月28日付け農地第78-1号

平成9年5月1日付け農振第920号

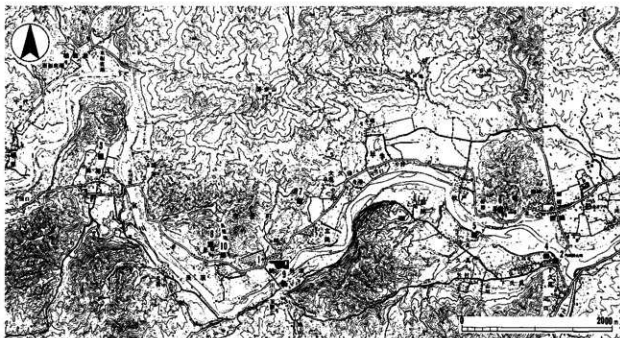
・法第98条の2第1項（文化庁長官あて）

平成9年5月26日付け教文第1088号県教育長通知

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長あて）

平成9年9月17日付け教文第6-74号（県教育長通知）

## II 位置と歴史的環境



第1図 遺跡位置図（1：50,000）（国土地理院1：25,000国東山・伊勢より）

## 1 地理的環境

鯉川西出B遺跡(1)は、行政的には度会郡度会町鯉川字西出にあり、宮川中流左岸の河岸段丘上に位置する。宮川は大台山系の多雨地域を源流とし、途中多くの支流を集めながら北東流し伊勢湾に注ぐ全長90km余りの河川である。

この宮川の中流域には河岸段丘が発達している。河岸段丘は上部の平坦な段丘面と前面の段丘崖からなっている。度会町の宮川両岸ではこのような地形が連続しており、段丘面は平地に乏しい山間に集落や交通路の場所を提供している。また、乏水性が大きいため、畑地が多く、度会茶を産みだしている。

## 2 歴史的環境

度会町の遺跡の大半は縄文時代と中世の遺跡である。当町や多気郡大台町にみられる宮川の段丘面では、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く見られる。大台町の出張遺跡では、1976・77年に発掘調査が行われ、ナイフ形石器などが多量に出土し、中核的な遺跡として位置づけられている<sup>①</sup>。また、下久具の山崎遺跡(2)では昨年度発掘調査が行われ、旧石器時代～縄文時代初頭の石器が出土した。このほか皇學館大学考古学研究会などの精力的な調査により、一之瀬川流域を中心に旧石器時代遺物の散布が確認されている<sup>②</sup>。縄文時代の遺跡には、押形土器が出土する麻加江の栢垣内遺跡(3)〔早期初頭〕、下久具

の万野遺跡(4)〔早期～中期〕、上久具の森添遺跡(5)〔中期～晩期〕などがある。

度会町内の葛原、大野木、棚橋、牧戸には、9世紀末から13世紀に神宮祭主の大中臣氏によって開発された大橋御園が広がっていた。中世には門跡寺院である醍醐寺三寶院領となっている。棚橋の蓮華寺(後に法楽寺と改称)(6)は、神宮祭主の大中臣氏の氏寺として建立され、鎌倉時代以降寺内に殿舎を建てて、公家・武家の祈禱所として栄えている。南北朝期、南勢地方は南朝の勢力下であり、その要衝となっていたのが度会町南部にあった一之瀬城であった。これに対し、法楽寺は醍醐寺三寶院との関係から北朝方の拠点となり、南北朝の騒乱を繰り返している。鯉川西出B遺跡の周囲には、立岡城(7)・長原城(8)、南鯉川城(9)などの中世の城跡がある。また、昨年度発掘調査を行った野田遺跡(10)は長原城の麓にあり、中世末～近世にかけての獨立柱建物などを確認している。

近世、度会町は藤堂氏玉丸領から元和5(1620)年の領地替えにより紀州藩田丸領となり近代に及んでいる。

〔注〕

①：ミヅ本貞夫・森田尚宏ほか「出張遺跡発掘調査報告書」(1979年)大台町出張遺跡調査会

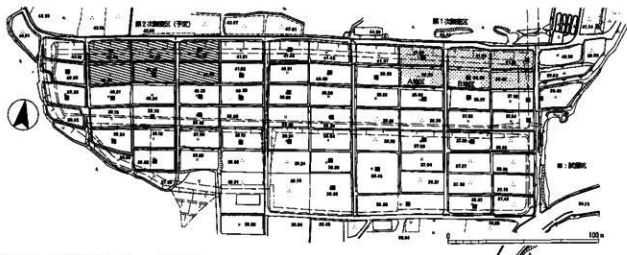
②：皇學館大学考古学研究会「一之瀬川流域の遺跡」(1997年、皇學館大学考古学研究会)

〔参考文献〕

・度会町史編纂委員会「第1編 沿革」(『度会町史』1981年、度会町役場)



第2図 遺跡地形図(1:5,000)



第3図 調査区位置図 (1 : 2,500)

### Ⅲ 調査の成果～層位と遺構～

#### 1 調査の方法

##### (1) 調査区の設定と基準点の設定

今年度は遺跡東端の2,200 m<sup>2</sup>の調査を行った。調査区の現況は、もと傾斜地であった所に小区画のは場整備が行われた水田で、棚田状の上下2段×3列の6筆分の調査を行った。間に農業用道路があったため道路の西をA地区、東をB地区とした。

調査の基準点には任意の点を用いたが、第2次調査時に第1次調査との位置的な関連を知るために調査区の基準点2点の延長線上にポイントを残した。

##### (2) 小地区の設定

各調査区内は、設定された基準点をもとに4 m方眼を切り、北西からA1～として小地区を設定した。

##### (3) 下層調査の方法

上層調査中に旧石器の剥片が出土した。このため剥片出土地点を中心に、小地区をさらに4分割した地区を設定し、小さな道具による掘削を行った。

#### 2 基本層序

調査区は、丘陵端部の傾斜地で、現状では段差のある水田になっている。多量の盛土が行われており、耕作土・包含層を除去した結果、上・下で約3 mの比高差のある傾斜地を検出した。調査区の基本層序は、上から灰褐色系の耕作土、礫を混入する褐色系砂質土の客土、暗褐色系粘質土、黄褐色系粘質土、

礫を混入する黄灰色砂質土となっている。A地区の遺構検出面は北端では黄灰色砂質土、中央から南では黄褐色系粘質土とした。B地区では中央から南の部分では重機による表土除去中に暗褐色系粘質土から遺構が切り込んでいる状況が確認されたため、この層を少し削り込み、遺構検出面とした。

#### 3 上層の調査 (遺構)

調査の結果、鎌倉時代から室町時代末までの遺構・遺物を確認した。以下に、各遺構についての特徴を述べるが、数値等は遺構観察表を参照されたい。なお、遺構実測図中の遺物に付す番号は遺物実測図の番号と同一である。

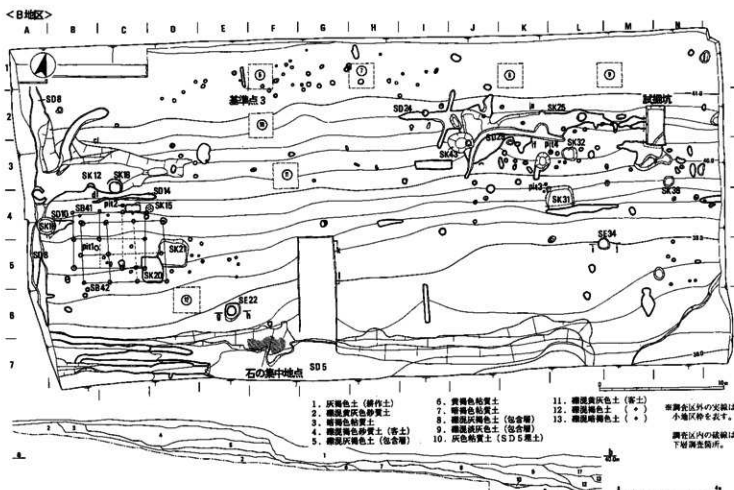
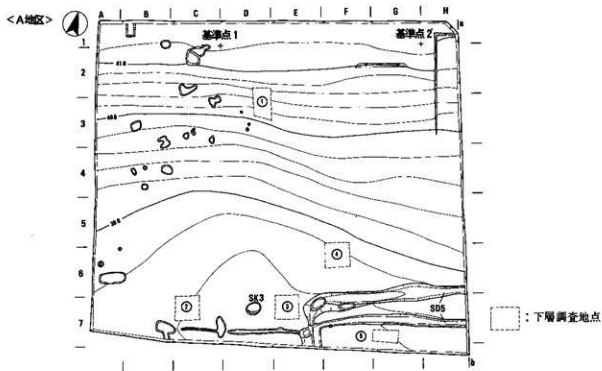
##### (1) 鎌倉時代の遺構

SK3 (第5図) A地区南端中央で検出した。楕円形の土坑で、断面は隅丸方形である。底部から20～30 cm大の石が集中して出土した。掘削中から常に水が湧いており、井戸として利用されていたのであろうか。石は意図的に組まれた形跡がなく、廃絶時に投棄されたものと考えられる。

##### (2) 室町時代中葉以降の遺構

###### A. 掘立柱建物

SB41 (第6図) B地区西端中央部で検出した2間×3間の総柱建物で、E-16° - Nの東西棟である。ピットから土師器鍋・皿、緑釉小皿が出土した。SB42 (第6図) SB41と重複して検出した2間×



第4図 遺構平面図(1:300)・土層断面図(1:150)



3間の総柱建物で、E-17°-Nの東西棟である。南東隅にSK20があり、南東隅土坑とも考えられる。

#### B. 土坑

SK 15 (第6図)SB41の北側で検出した深さ1mの方形の土坑である。方向がSB41・42と近似しており建物に伴う土坑と考えられる。SB41とはあまりに近いため、SB42に伴うものと考えられよう。遺物は土師器の小片が少量出土したのみである。SK20・21 (第7図) SB41・42と重複して検出した。SK21がSK20を切る。SB41の南東隅の柱穴はSK20掘削後に検出した。SK20をSB42の南東隅土坑とした場合、掘立柱建物と土坑との前後関係は、SB41→SB42-SK20→SK21となる。

SK12 (第4・8図) SB41・42の北約2mで検出した東西方向に長い不定形の土坑である。SD8を切る。土師器・陶器等コンテナバット2箱程度の遺物が出土した。

SK25 (第4・8図) B地区東部中央で検出した東西方向に長い不定形の土坑である。溝状に延びているものは後述のSD24・29を除いては根等の攪乱によるものと考えられる。土師器・陶器等コンテナバット2箱とともに、炭が少量出土した。

SK32 (第7図) SK25の南で検出した楕円形の土坑である。土師器鍋・皿・羽釜小片とともに鉄製の刀子が出土した。SK32は墓として使用され、刀子は副葬品であった可能性もある。

SK31 (第4図) SK32の南で検出した方形の土坑である。遺物は土師器皿・鍋、陶製摺鉢とともに青磁片が出土した。

SK38 (第4図) SK31の東で検出した。深さ30cmほどの楕円形の土坑である。遺物は土師器皿・鍋が少量出土した。

SK16 (第7図) A地区西端中央、SD8の下層で検出した、円形でスリパチ状の断面を持つ土坑である。底に石が集中して出土した。

#### C. 井戸

SE22 (第8図) SB41・42の南東部で検出した。素掘りの井戸である。底は常時水が湧いていた。中程で土師器茶釜が逆位で出土した。

SE34 (第8図) SK31の南東で検出した。素掘りの井戸である。深さ1m付近で完形に近い土師

鍋・皿がまとめて出土した。

#### D. 溝

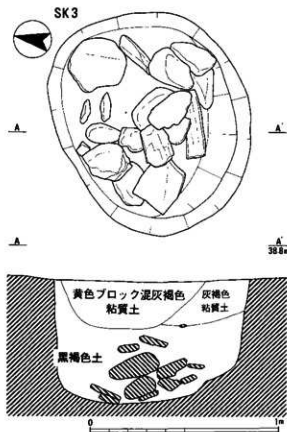
SD8 (第4図) B地区西端を南北に流れる溝である。コンテナバット3箱程度の遺物を含む。SK12に切られる。

SD14 (第4図) SK12とSB41・42の間で検出した。東端が深い。完形の土師器皿が出土した。

SD24 (第4図) SK25に切られる溝である。完形の土師器皿が出土した。

SD29 (第4・8図) SK25の下層で検出した。東から西に向かい、南へ折れる。土師器鍋・皿・羽釜、陶器壺・平碗が出土した。

SD5 (第4図) A・B両地区の南端にある溝で、両端は南に曲がる。北辺の長さは63mである。底はA地区およびB地区西端から10mほどは2~3本に分かれる。SE22の南東部付近では石を集中して検出した(図版1)。出土遺物には土師器鍋・皿・羽釜、陶器天目茶碗・灰釉皿・平碗・控鉢・摺鉢のほか、石臼片、五輪塔、鉄砲玉と考えられる鉛玉が出土した。出土量はコンテナバット2箱程度になる。



第5図 SK3平面・断面図(1:20)

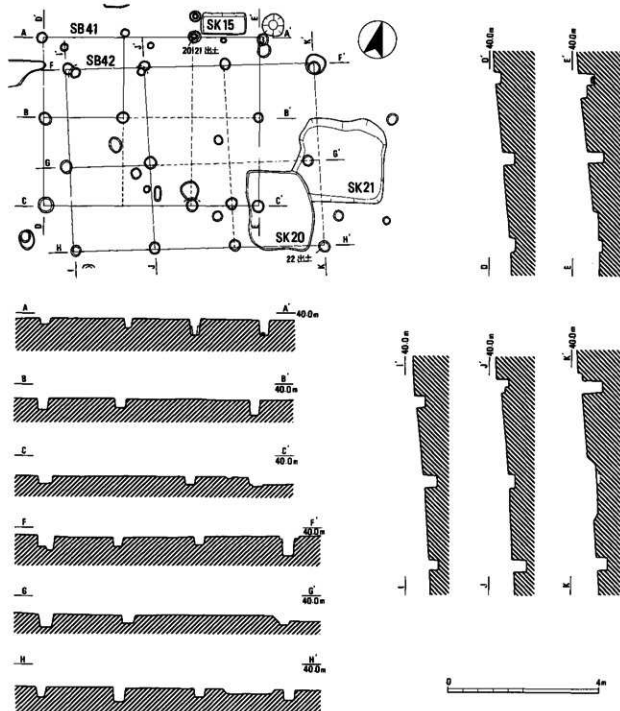
### (3) 時期不明の遺構

SK18 (第4図) SK12の下層で検出した、円形でスリバチ状の断面を持つ土坑である。不明鉄製品が折れた状態でかたまって出土した。

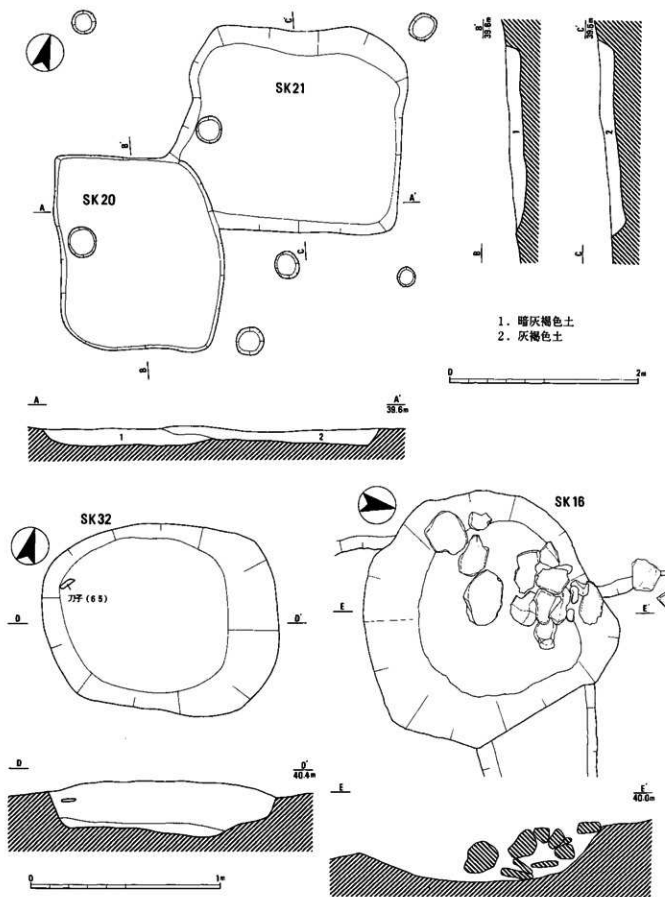
SK43 (第4図) SK25の下層で検出した、楕円形でスリバチ状の断面を持つ土坑である。SK25と同時に掘削してしまったためこの遺構の遺物は確認できなかった。

### 4 下層の調査

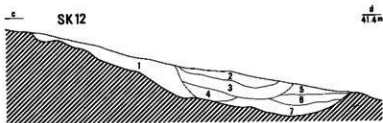
A地区で5箇所、B地区で7箇所あわせて12箇所の掘削を行った。その結果、チャートを中心とした割片・石核が出土した。(第2表参照) 旧石器時代の遺跡範囲はB地区北半を中心としている。調査終了前に重機によってトレンチを設定した結果、5層上面からもチャート製の割片・石核が出土した。



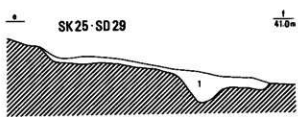
第6図 SB41・42、SK15平面・断面図(1:100)



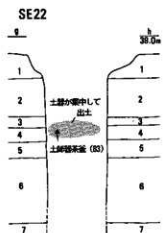
第7图 SK20・21、SK32、SK16平面・断面图 (SK20・21は1:40、SK32、SK16は1:20)



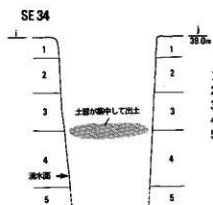
1. 褐色土
2. 黄橙色土
3. 暗橙色土に灰色土が混入
4. 灰褐色土
5. 灰褐色土
6. 褐色土
7. 暗灰褐色土



1. 灰褐色土

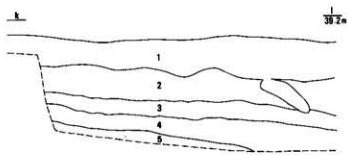


1. 暗褐色土
2. 黄色粘質土
3. 黄褐色土
4. 粘土混黄色土
5. 淡黄褐色粘質土
6. 黄白色粘土
7. 黄灰色砂



1. 黒褐色土
2. 橙色土
3. 暗橙色土
4. 黄灰色粘土
5. 黄灰色礫

B地区下層



1. 暗褐色土
2. 黄色土
3. 黄褐色土
4. 粘土混黄色土
5. 淡黄褐色粘質土

※各断面を測った場所は第4図に記入している。



第8図 SK12、SK25・SD29断面図、SE22、SE34断面略図、B地区下層断面図 (1:40)

## 掘立柱建物

遺構名	風 向 掘立柱の向き	掘立柱の 間隔 (m)	掘立柱の 幅 (m)	掘立柱の 高さ (m)	掘立柱の 位置 (北から)	掘立柱の 位置 (北から)	掘立柱の 位置 (北から)	掘 込 部			土 質	時 期	備 考
								形状	深 (cm)	幅 (cm)			
S B 4 1	3階2間	掘柱	5.7	4.5	E 16° N	円形	30	15-45	29	E 階			
S B 4 2	3階2間	掘柱	6.5	4.8	E 17° N	円形	30	25-35	不明	E 階		やや平坦部の形状をとる	
												2.1+2.1+2.3	2.55+2.25

## 土坑

遺構名	風 向 (m)	深 さ (cm)	形 状	時 期	備 考
S K 3	(東西) 1.2 X (南北) 1.0	6.5	角 形	I 期	月の可能性あり
S K 1.5	(東西) 1.2 X (南北) 0.5	10.0	方 形	II 期	
S K 2.0	(東西) 1.7 X (南北) 2.1	2.0	楕円方形	II 期	S B 42の南東風上流の可能性あり
S K 2.1	(東西) 2.5 X (南北) 2.2	1.5	楕円方形	II 期	S K 20を切る
S K 1.2	(東西) 12.5 X (南北) 4	3.5	不 定 形	III 期	S K 8を切る
S K 2.5	(東西) 13.5 X (南北) 2.2-4.2	1.0	不 定 形	III 期	
S K 3.2	(東西) 1.3 X (南北) 1.0	3.0	角 形	III 期	中層基の可能性あり
S K 3.1	(東西) 2.0 X (南北) 1.8以上	3.0	方 形	III 期	
S K 3.8	(東西) 0.9 X (南北) 0.8	3.0	楕 円 形	III 期	
S K 1.6	(東) 1.4	3.0	円 形	II-III期	S B 8の下層で検出
S K 1.8	(東) 0.8	1.5	円 形	III 期	S K 12の下層で検出
S K 4.3	(東西) 2.1 X (南北) 1.6	3.5	楕 円 形	不明	S K 25の下層で検出

## 溝

遺構名	幅 (m)	深 さ (m)	深 さ (cm)	方 位	時 期	備 考
S D 8	1	20	30-40	N14° W	III 期	
S D 1.4	0.1-0.5	5	20	E12° NからE40° N	II-III期	風通気で定形の土層露出上
S D 2.9	0.4-0.6	10	30-40	E 6° NからN 1° W	II期 ?	S D 25の下層で検出
S D 5	3.0-4.0以上	60	60以上	E14° NからN 14° W	II-III期	西の方の流は2-3mに分かれる
S D 2.4	0.5	6	7	E12° N	E 階以降	S K 25に知られる

## 井戸

遺構名	風 向 (m)	深 さ (cm)	時 期	備 考
S E 2.2	[1]掘[東西]1.8X[南北]1.0[下層]掘[東西]0.7X0.5	不明	II 期	深さ90cmのところまで葦草等が出た
S E 3.4	(東西) 1.0 X (南北) 0.9	不明	III 期	深さ1mのところ土層露出、葦が集中して出土

第1表 遺構観察表

遺構 番号	地 区	(m)		掘込高	形 状	石 材	備 考	掘込 番号	地 区	(m)		掘込高	形 状	石 材	備 考
		W-E	N-S							W-E	N-S				
1	B42	-	-	-	土層	チャート	下層の包含層出土	B42					粘土	チャート	下層の包含層出土
2	B415	90	79	41.12	土層	チャート	掘上げ番号 2	B45					粘土	チャート	*
3	B417	4	95	41.17	土層	チャート	掘上げ番号 2	B43					粘土	チャート	*
4	B44	-	-	-	埋没のある断片	チャート	下層の包含層出土	B43					粘土	チャート	*
5	B415	82	171	41.12	断片	瓦管	掘上げ番号 2	B44					粘土	チャート	*
6	B415	100	80	41.07	心礎	チャート	掘上げ番号 3	B41					粘土	チャート	*
7	B44	-	-	-	心礎	チャート	掘上げからの出土	B41					粘土	チャート	*
8	B419	-	-	-	石礎	砂岩	砂岩	B41					粘土	チャート	*
9	B46	-	-	約30.0	土層	チャート	埋没トレンチ5層上流	B41					粘土	チャート	下層のビット出土
10	B46	-	-	約38.0	土層	チャート	埋没トレンチ5層上流	B44					粘土	チャート	*
-	B415	5	95	41.18	断片	チャート	掘上げ番号 1	B46					粘土	チャート	下層の包含層出土
-	B416	85	195	41.10	断片	チャート	掘上げ番号 3	B41					粘土	チャート	*
-	B415	140	70	41.22	断片	瓦管	掘上げ番号 4	B41					粘土	チャート	下層のビット出土
-	B415	180	130	41.20	断片	砂岩	掘上げ番号 5	B47					粘土	チャート	下層のS13出土
-	B415	82	150	41.11	断片	チャート	掘上げ番号 6	B41					粘土	チャート	下層の包含層出土
-	B430	70	123	40.84	断片	チャート	掘上げ番号 2	B43					粘土	チャート	*
-	B430	30	181	40.95	断片	チャート	掘上げ番号 3	B41					粘土	チャート	*
-	B417	119	23	41.12	断片	チャート	掘上げ番号 1	B41					粘土	チャート	*
-	B415	150	8	41.14	断片	チャート	掘上げ番号 1	B41					粘土	チャート	*
-	B415	15	114	41.08	断片	チャート	掘上げ番号 4	B41					粘土	チャート	*
-	B415	140	121	41.05	断片	チャート	掘上げ番号 5	B41					粘土	チャート	*
-	B415	140	121	41.05	断片	チャート	掘上げ番号 6	B46					粘土	チャート	*
-	B415	-	-	-	断片	チャート	埋没トレンチ5層上流						砂岩	埋没トレンチ5層上流	

第2表 旧石器時代出土遺物一覧表

[※ 「地区」の項の丸付数字は下層の調査区を示す (第4図参照)]

## IV 調査の成果～遺物～

今回の調査では総量でコンテナバット15箱程度の遺物が出土した。以下、各遺構出土遺物について概述する。なお、数値等は遺物観察表を参照されたい。

### 1 旧石器時代の遺物 (1～10)

今回の調査では製品は確認できず、剥片や石核のみの出土であった。1～8は上層及び下層の調査中に出土したものである。1・2はチャート製の二次調整の施された剥片(以下RF)で、それぞれ2側縁、1側縁に調整を施している。3もチャート製のRFで腹面に調整がみられる。4はチャート製の剥片で、刃部に細かな使用痕跡が認められる。5は頁岩製の剥片で、連続して定形的な剥片が作られていたことがうかがえる。6・7はチャート製の石核でそれぞれ5・2面以上の剥片剥離面を持つ。8は砂岩製の石核で連続した3面の剥片剥離面を持つ。9・10は重機によるトレンチ掘削時に出土したものである。9はチャート製の石核で4面以上の剥片剥離面を持つ。10はチャート製のRFである。

### 2 鎌倉時代の遺物について

#### (1) SK3出土の遺物 (11～19)

土師器皿・鍋、山茶碗が出土した。土師器は全て南伊勢系のもので、蚊山遺跡左郡地区のI期のセットに類似する。土師器鍋(18-19)は伊藤編年の第1段階b型式に相当する。

#### 3 室町時代中葉以降の遺物について

土師器・陶器・磁器等が出土している。土師器は全て南伊勢系、陶器は瀬戸・美濃系を中心とし、磁器は中国産のものである。

#### (1) SB41・42出土の遺物 (20～22)

土師器皿(20-22)はいずれもA系統に属するもので内外面をナデ調整している。縁軸小皿(21)は縁に灰釉が施されたもので、古瀬戸編年の後IV期ごろのものである。20・21は柱痕跡からの出土である。

#### (2)SK20・21出土の遺物 (23～30)

土師器皿はA系統のもの(23・24・28-29)とB系統のもの(25-30)がある。鍋は伊藤編年の第3段階b型式に相当する。天目茶碗(27)は高台を欠くが、高台周辺が露胎で、丸みをもった体部が緩や

かに立ち上がる。古瀬戸編年後Ⅱ～Ⅲ期ごろのものと考えられる。

#### (3) SK12出土の遺物 (31～50)

整理箱2箱分の遺物が出土した。土師器皿はA系統(31)、B系統(32)がある。33は皿の破片に穴を穿けたものでハトメ銭に類するものであろうか。天目茶碗(34)は口縁部が強く外反し、高台付近が露胎のものである。平碗(35)は高い貼り付け高台をもつ。縁軸小皿(37)は、外反した口縁端部に灰釉がかかる。摺鉢(40)は鉄釉を施したもので、非常にすり減っている。陶器の時期にはばらつきがあるが、古瀬戸編年後IV期から大窩編年<sup>5)</sup>1期ごろに中心がある。志野丸皿(37)は大窩編年5期のものがあるが、混入であろう。鍋・羽釜・茶釜類はそれぞれ中・小2種類が認められる。中型の鍋には口縁を折り返したもの(49)、半球形のもの(46・47)、口縁部の折り返しが認められないもの(43)の3種が確認できた。伊藤編年の第4段階c型式に相当する。鉄刀は先端のみの出土である。

#### (4) SK25出土の遺物 (51～62)

土師器皿はB系統(52)とD系統(53)がある。鍋は中型のものと小型(62)のものがあり、伊藤編年の第4段階d-e型式に相当する。志野丸皿(54)は大窩編年の第4期、端反皿(56)は第1期と、ばらつきがある。

#### (5) SK32出土の遺物 (63～65)

土師器皿A系統(63)、B系統(64)および土師器鍋の小片が出土している。鍋は伊藤編年の第4段階b-c型式と考えられる。65は土坑の西端部付近で出土したもので、刀子の先端部であろう。

#### (6) SK31出土の遺物 (66～77)

土師器皿はA系統(66-67)とB系統(68～72)がある。摺鉢(74)は古瀬戸編年の後IV期古段階に相当する。鍋は中型と小型の2種類があり、伊藤編年の第4段階c型式に相当する。青磁碗は、底面にスタンプ文を施し薄い釉がかかるもので13世紀以降のものである。

#### (7) SK38出土の遺物 (78-79)

土師器皿B系統、鍋が出土している。鍋は小片であるが、伊藤編年の第4段階c型式に相当しよう。

(8) SK16出土の遺物 (80)

土師器鍋と半球形鍋(80)が出土している。

(9) SE22出土の遺物 (81~85)

茶釜(83)は肩部に扁平なつまみを持つ一般的なものである。鍋(82)は小片であるが伊藤編年の第3段階b型式に相当する。

(10) SE34出土の遺物 (86~101)

土師器皿はA系統(86)とB系統(87~93)がある。措鉢(94)は古瀬戸編年の後Ⅳ期に相当する。鍋は中型と小型の2種類があり、伊藤編年の第4段階b~c型式に相当する。

(11) SD8出土の遺物 (102~131)

土師器皿はB系統(102)、C系統(103)、D系統(104・105)がある。緑釉小皿(106・107)、天目茶碗(108・109)、平碗(110)は古瀬戸編年後Ⅳ期ごろのものである。青磁碗(111)は森田・横田氏分類の龍泉窯系のⅠ類に相当する。114は措鉢の底を利用した加工円盤で周囲を敲打によって調整している。茶釜(117・118)は小型で鋳をもたない。羽釜は小型のもの、中型のものがある。鍋は中型と小型があり小型鍋の口縁端部は折り返すもの(124・125)とつまみあげるもの(122・123)の2通りがある。その他、半球型鍋(130)や金属模倣の鍋(126)も見られる。総じて伊藤編年の第4段階c型式に相当しよう。

(12) SD14出土の遺物 (132・133)

土師器皿A系統(132)・B系統(133)がある。

(13) SD24出土の遺物 (134)

土師器皿A系統(134)がある。

(14) SD29出土の遺物 (135~138)

土師器皿はC系統がある。鍋(138)は小片であるが伊藤編年の第4段階e~f型式に相当しよう。平碗(136)・瓶(壺)の底部(137)は古瀬戸編年後期の範疇でとらえられよう。

(15) SD10出土の遺物(139)

青磁の小碗(139)が出土した。13世紀末以降のものである。

(16) SD5出土の遺物 (140~169)

土師器皿はB系統(140)、C系統(141~145)、D系統(146・147)がある。151は天目茶碗の底部を加

工した加工円盤である。152は筒形香炉もしくは小壺と考えられ、口縁部に鉄軸が施されている。153は花瓶もしくは瓶子の肩部で灰軸が施される。154は鉢類の口縁部である。鍋軸が施されているが、胎土の感じから瀬戸・美濃製品ではない可能性もある。このほか天目茶碗・平碗・折縁深皿などが出土しており、古瀬戸編年後Ⅳ期から大瀬戸編年Ⅰ期ごろに相当しよう。鍋は中型と小型のものがある。165は伊藤編年の第4段階e~f型式に相当しよう。167は石の集中部から出土した。半分に割れ、指目も確認できなかった。石垣等に転用されたものであろう。168・169はいずれも一石五輪塔の一部と考えられる。

4 時期不明遺構出土の遺物 (170)

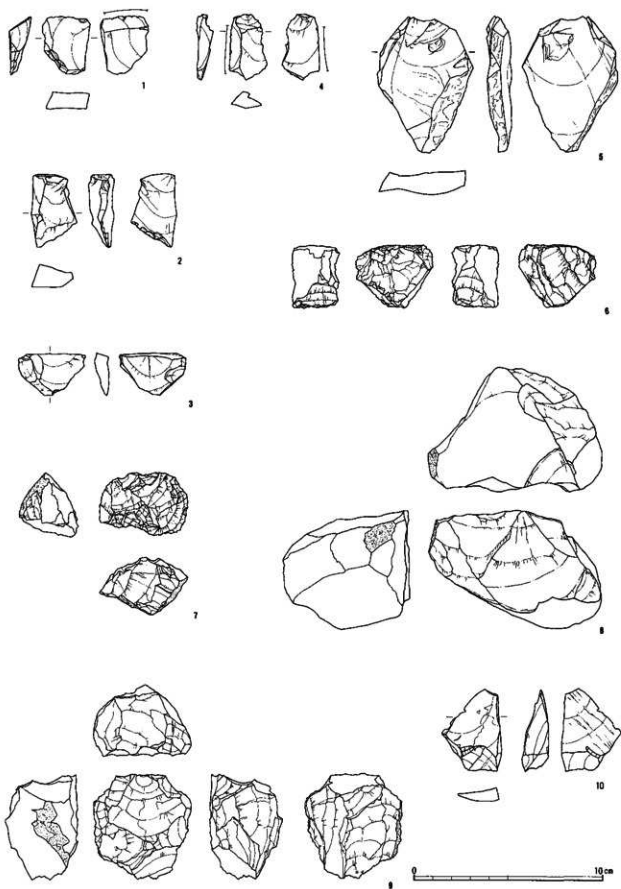
SK18では、底部付近から不明鉄製品(170)が折れた状態で出土した。先端が広く反った板が毛抜き状に折れ曲がると考えられる。用途は不明である。

5 その他の遺構・包含層出土の遺物 (171~185)

176は灰軸丸皿で、江戸時代に下るものであろう。177は緑釉小皿の底部で、墨書が認められる。178は、高い高台を持つ。土師器小碗であろうか。184は内面にスタンプ文を施したもので、内外面に厚く軸葉が施され、高台内部の軸葉は削り取られている。175は土師器茶釜の口縁部である。

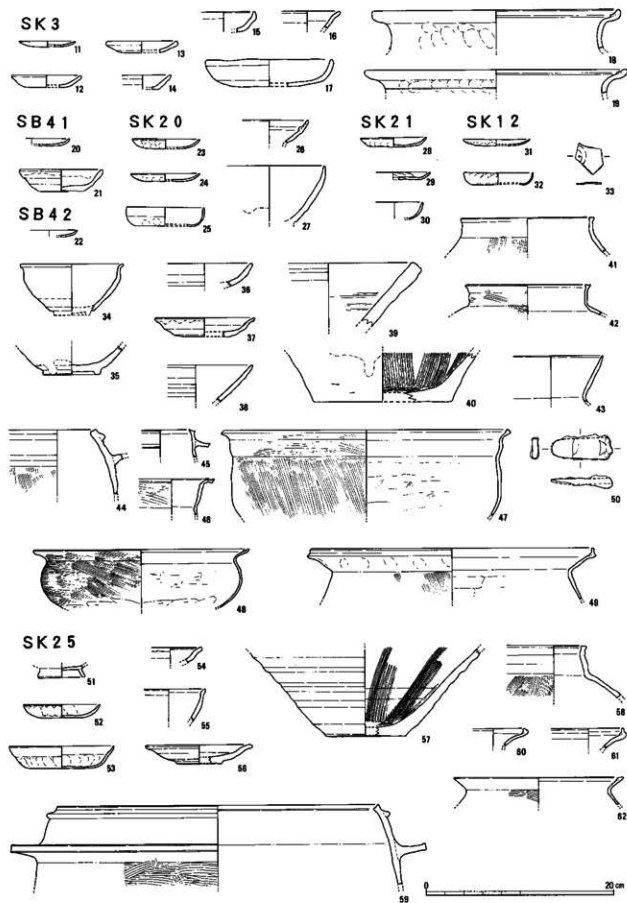
[註]

- ①前川善宏ほか「近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告-第6分冊-放山遺跡(左部地区) (1993年、三重県埋蔵文化財センター)
- ②伊藤裕隆「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」(『研究紀要第1号』1992年、三重県埋蔵文化財センター)
- ③南伊勢系土師器の分類は次の文献の分類に従った。(伊藤裕隆「多気遺跡部発掘調査報告」1993年、三重県埋蔵文化財センター)
- ④藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ-古瀬戸後期様式の編年-」(『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』1991年、瀬戸市歴史民俗資料館)
- ⑤伊藤裕隆「多気遺跡部発掘調査報告Ⅳ 松月院跡・伝本願寺跡」(1997年、三重県埋蔵文化財センター)では土師器鍋碗の破片を円形に加工して中央に穴を開けたものが出土している。本例もそれに類似するものであろうか。
- ⑥藤澤良祐「瀬戸市史跡編年編四」(1993年、愛知県瀬戸市)
- ⑦南伊勢系土師器の中間期で口縁部を折り返さないもの出土は少なく、これまで若宮遺跡「伊藤裕隆『若宮遺跡』(昭和63年度農業局整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊-)」1989年、三重県教育委員会)等で確認されていたのみであった。
- ⑧森田勉・横田次郎「太平宮出土の輸入中国陶磁器について」(『九州歴史資料館研究論集』4、1979年、九州歴史資料館)

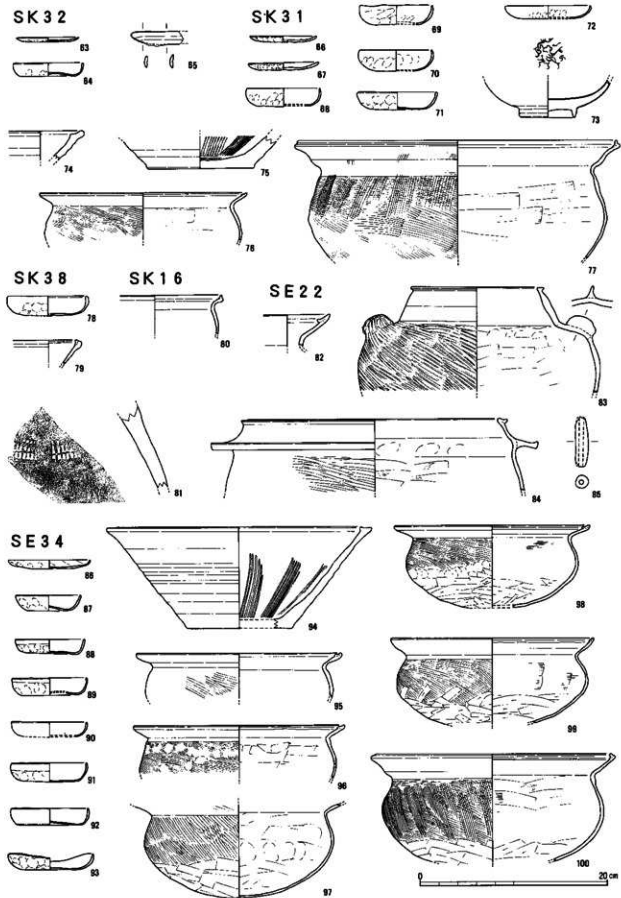


第9圖 出土遺物実測圖(1)(1:2)

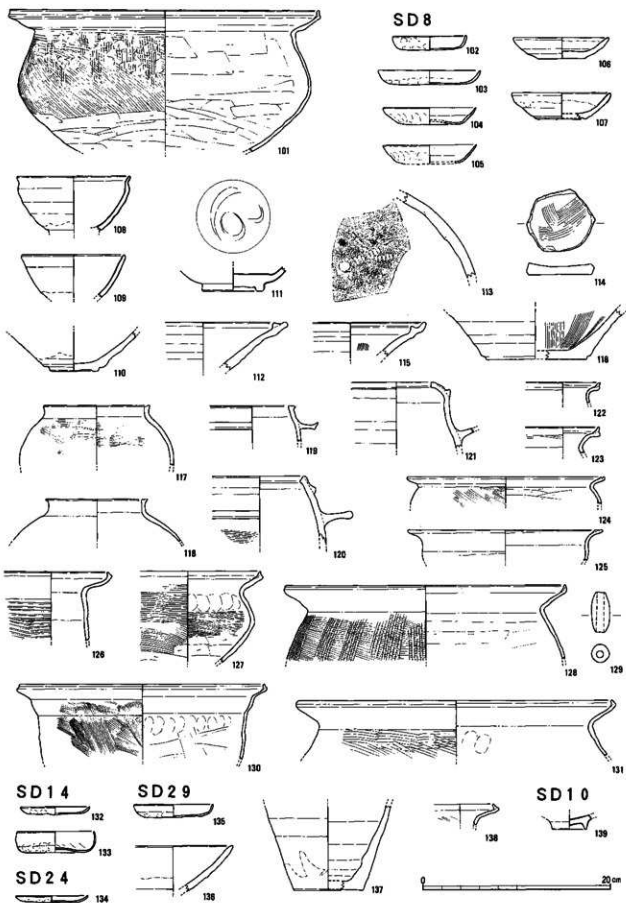




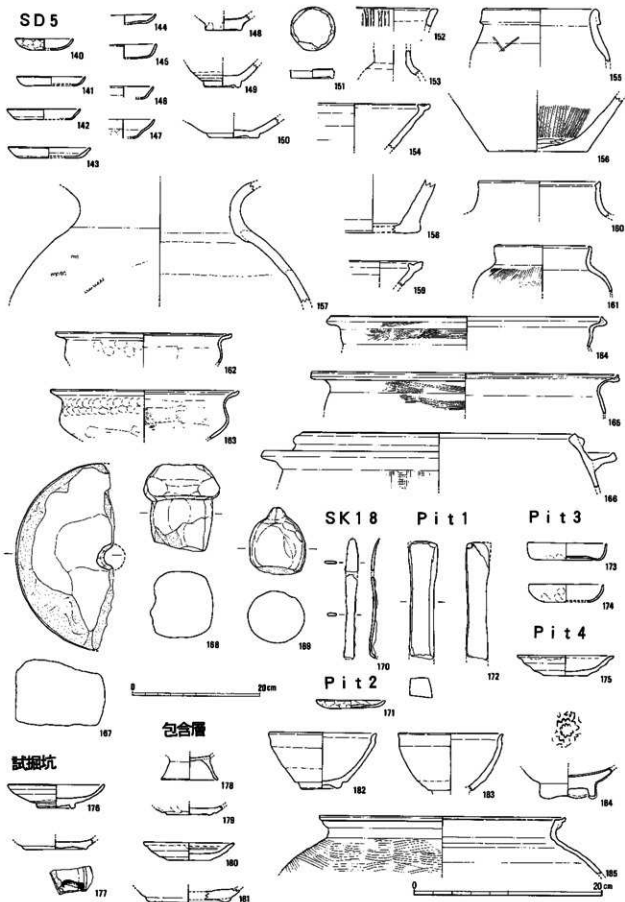
第10圖 出土遺物実測圖(2)(1:4)



第11圖 出土遺物実測圖(3)(1:4)



第12图 出土遺物実測図(4) (1:4)



第13圖 出土遺物実測圖(5)(1:4、167~169のみ1:6)

観測 番号	発見 番号	部 種	地 区	出 量				石 種	報告 番号	採掘 番号	部 種	地 区	出 量				石 種
				最大 (cm)	平均 (cm)	最小 (cm)	重量 (kg)						最大 (cm)	平均 (cm)	最小 (cm)	重量 (g)	
1	39-01	R-P	B-02	3.1	2.5	1.2	9.3	チャート	6	39-06	石 核	B-MB-0	3.4	4.1	2.4	32.4	チャート
2	39-02	R-P	B-M1/B	3.8	2.4	1.2	12.4	チャート	7	39-07	石 核	B-M	3.4	4.7	3.1	42.2	チャート
3	39-03	R-P	B-M1/B	2.2	2.5	0.9	6.9	チャート	8	39-08	石 核	B-KH-E	6.3	9.2	6.7	403.0	砂 岩
4	39-04	使用済みのある銅片	B-M4	3.5	2.0	0.8	5.1	チャート	9	39-09	石 核	H-G6	5.6	5.2	3.8	321.0	チャート
5	39-05	銅片	B-P15	7.2	5.0	1.2	40.4	頁 岩	10	39-10	R-P	B-G6	4.5	3.2	1.3	17.4	チャート
観測 番号		部 種	地 区	遺跡	出 量 (cm)			調査・採掘上の特徴	部 種	構成	色 調		備 考				
最大	平均				その他	色 調	備 考										
11	1-1	土師器 甕A	A-D7	SK3	6	0.6		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR5/4	白緑/4						
12	1-6	土師器 甕	A-D7	SK3	7	1.3		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	白緑/6						
13	1-2	土師器 甕	A-D7	SK3	7.5	1.3		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	白緑/6						
14	1-3	土師器 甕	A-D7	SK3	不明	1.5		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	小片						
15	1-4	土師器 甕	A-D7	SK3	不明	2.1		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	小片						
16	1-5	土師器 山形甕	A-D7	SK3	不明	不明		内:チャート 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/1	小片						
17	1-9	土師器 甕	A-D7	SK3	13	2.8		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃 7.5YR6/6	白緑/2						
18	1-8	土師器 甕	A-D7	SK3	26	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	小不貞 濃い黄 10YR7/3	白緑/6						
19	1-7	土師器 甕	A-D7	SK3	26	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	白緑/6						
20	9-0	土師器 甕A	B-C4	SK4	不明	0.8		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR6/1	小片						
21	8-2	陶器 鉢形陶器	B-C4	SK4	8.5	5.4	重量4.5	内:チャート 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/1 濃灰 10YR2/2	白緑/4						
22	9-6	土師器 甕A	B-D5	SK2	不明	0.8		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	小片						
23	9-5	土師器 甕A	B-D5	SK20	7	1		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	白緑/4						
24	8-7	土師器 甕A	B-D5	SK20	7.1	0.8		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	白緑/3						
25	9-3	土師器 甕片	B-D5	SK20	8	2		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	白緑/3						
26	9-6	土師器 甕	B-D5	SK20	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR7/2	小片						
27	8-6	陶器 大口高脚	B-C5	SK20	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 10YR2/2	小片						
28	8-8	土師器 甕A	B-D6	SK21	6.8	1		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR 6/2	白緑/4						
29	9-10	土師器 甕A	B-D6	SK21	不明	0.7		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	小片						
30	9-7	土師器 甕片	B-D6	SK21	不明	1.8		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	小片						
31	20-7	土師器 甕片	B-A3	SK12	7	0.7		内:チャート 外:チャート	赤 黄	不貞 濃灰 7.5YR8/2	白緑/3						
32	20-6	土師器 甕片	B-A3	SK12	7.2	1.3		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	白緑/3						
33	1-10	土師器 甕片	B-B3	SK12	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	小片	単片					
34	21-3	陶器 大口高脚	B-B3	SK12	11	不明		内:チャート 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/1 濃灰 10YR2/2	白緑/5						
35	18-4	陶器 字箱	B-A3	SK12	不明	不明	重量6	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 10YR2/2	濃緑/4						
36	21-6	陶器 鉢形小皿	B-B3	SK12	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	小片						
37	21-7	陶器 鉢形小皿	B-A3	SK12	10	2	重量5	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4 濃灰 10YR2/2	小片						
38	21-5	陶器 字箱	B-B3	SK12	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4 濃灰 10YR2/2	小片	土師器片に属する可能性がある					
39	21-8	陶器 肉鉢	B-C3	SK12	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/6	小片						
40	21-4	陶器 肉鉢	B-C13	SK12	不明	不明	重量14.8	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4 濃灰 10YR2/2	白緑/6	土師器片に属する可能性がある					
41	21-2	土師器 甕蓋	B-A3	SK12	14	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	白緑/10						
42	21-1	土師器 甕蓋	B-A3	SK12	13	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 10YR7/4	白緑/6						
43	1-11	土師器 甕	B-B3	SK12	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	小片						
44	21-8	土師器 甕蓋	B-C2	SK12	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR8/3	小片	土師器片に属する可能性がある					
45	20-4	土師器 甕蓋	B-A3	SK12	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	小片						
46	20-5	土師器 甕	B-A3	SK12	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	小片	外面に縦溝					
47	20-2	土師器 甕	B-B3	SK12	20	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃い黄 10YR7/3	白緑/7	外面に縦溝					
48	20-3	土師器 甕	B-D3	SK12	23	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃 7.5YR6/6	白緑/8	外面に縦溝					
49	20-1	土師器 甕	B-C3	SK12	20	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	白緑/8	外面に縦溝					
50	38-2	鉄製瓦	B-33	SK12	-	-	重量1	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/3	白緑/6	瓦蓋のみ					
51	22-4	土師器 小甕	B-22	SK25	不明	不明	重量16.8	内:チャート 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR6/3	濃黄/1.2						
52	22-3	土師器 甕片	B-22	SK25	8	1.4		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	白緑/4						
53	23-6	土師器 甕片	B-R2	SK26	11	2.4		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/4	濃緑						
54	24-3	陶器 鉢形小皿	B-23	SK25	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	小片						
55	22-5	陶器 大口高脚	B-23	SK25	不明	不明		内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	小片						
56	24-1	陶器 甕片	B-R2	SK25	11	2.1	重量6.9	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	小片						
57	23-1	陶器 鉢形	B-R2	SK25	不明	不明	重量5	内:土コナ 外:土コナ	赤 黄	濃灰 7.5YR7/4	濃緑/5	土師器片に属する可能性がある					
58	23-1	土師器 甕蓋	B-R2	SK25	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	小片						
59	25-2	土師器 甕蓋	B-22	SK25	24	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	白緑/3	外面に縦溝					
60	23-4	土師器 甕	B-28	SK25	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 10YR7/4	白緑/4						
61	23-5	土師器 甕	B-22	SK25	不明	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃い黄 7.5YR7/3	小片						
62	23-2	土師器 甕	B-22	SK25	18	不明		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/3	白緑/7	小片					
63	34-3	土師器 甕片	B-A3	SK32	6.6	0.5		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 7.5YR6/3	白緑/4						
64	33-4	土師器 甕B	B-A3	SK32	7.3	1.4		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	白緑/2						
65	36-1	土師器 甕片	B-A3	SK32	-	-	重量4	内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	白緑/2						
66	27-7	土師器 甕A	B-A4	SK31	7	0.6		内:チャート 外:チャート	赤 黄	濃灰 10YR8/2	白緑/2						

第3表 出土土物観察表 (1)

編入 番号	産科 番号	産種	地区	産種	法量 (m)		調査・技法上の特徴	出土	産成	色	調査	検出状況	備考	
					縦長	幅								
97	27-0	土師器 ⅡA	B-4	SK21	7.4	0.0	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	5YR8/3	口縁1/8		
98	27-4	土師器 ⅡB	B-4	SK31	7.5	1.9	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁3/8		
99	27-5	土師器 ⅡB	B-4	SK31	7.5	2.1	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁3/8		
70	27-2	土師器 ⅡB	B-4	SK21	8	2.2	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁1/5		
71	27-3	土師器 ⅡB	B-4	SK31	8.3	1.9	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/2	口縁3/8		
72	27-8	土師器 ⅡB	B-4	SK31	8.8	1.5	内：土師 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁1/4		
73	26-4	青磁 Ⅱ	B-4	SK31	不明	不明	高台径 5.6 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	高台部分		
74	27-0	陶器 ⅡB	B-4	SK31	不明	不明	高台径 5.6 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	高台部分		
75	26-3	陶器 ⅡB	B-4	SK31	不明	不明	高台径 5.6 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	高台部分		
76	26-2	土師器 Ⅱ	B-4	SK31	32	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/4		
77	26-1	土師器 Ⅱ	B-4	SK31	34	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/4		
78	27-1	土師器 ⅡB	B-3	SK38	8.1	2.1	内：土師+青土 外：土師+青土 内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁1/3		
79	27-10	土師器 Ⅱ	B-3	SK38	不明	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/4	小片		
80	34-8	土師器 Ⅱ	B-34	SK16	不明	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	5YR8/3	小片	外側に検出	
81	23-3	陶器 Ⅱ	B-28	SE22	不明	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	灰白	5Y5/1	小片		
82	22-6	土師器 Ⅱ	B-26	SE22	不明	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	灰白	黄緑	10YR7/3	小片	
83	22-1	土師器 ⅡB	B-26	SE22	14	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR7/3	口縁部分	外側に検出	
84	22-2	土師器 ⅡB	B-26	SE22	27	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	黄緑	2.5YR7/3	口縁1/8	外側に検出	
85	8-10	土師器 ⅡB	B-26	SE22	27	不明	内：土師+青土 外：土師+青土	青	青	灰白	黄緑	7.5YR8/1	口縁部分	
86	29-6	土師器 ⅡA	B-35	SE34	8.6	0.9	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/4	口縁1/8		
87	29-8	土師器 ⅡB	B-35	SE34	6.8	1.7	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁1/4		
88	29-4	土師器 Ⅱ	B-35	SE34	7.3	1.8	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/2	口縁5/8		
89	29-7	土師器 ⅡB	B-35	SE34	7.8	1.9	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/8		
90	29-5	土師器 ⅡB	B-35	SE34	8	1.6	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/4	口縁1/4		
91	29-2	土師器 ⅡB	B-35	SE34	7.9	2	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/4	口縁1/2		
92	29-3	土師器 ⅡB	B-35	SE34	8.1	1.8	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/8		
93	29-1	土師器 ⅡB	B-35	SE34	8.3	1.8	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁	検出位置不明	
94	28-1	陶器 ⅡB	B-35	SE34	26	10.6	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/4	検出位置不明	
95	28-2	土師器 Ⅱ	B-35	SE34	22	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/4	外側に検出	
96	32-2	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	22	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/5	外側に検出	
97	31-2	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	22	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁部分	外側に検出	
98	30-1	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	21	8.9	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	黄緑	10YR7/3	口縁1/2	外側に検出 小片
99	30-2	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	21	26	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	黄緑	10YR8/2	口縁1/3	外側に検出
100	31-1	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	25	26	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁部分	外側に検出	
101	32-1	土師器 Ⅱ	B-36	SE34	33	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	2.5YR/4	口縁2/4	外側に検出	
102	14-4	土師器 ⅡB	B-A2	S08	7.8	1.5	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	10YR8/2	口縁1/2		
103	14-1	土師器 ⅡC	B-A2	S08	11	1.5	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/2	口縁1/2		
104	14-2	土師器 ⅡD	B-A2	S08	9.9	1.8	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁2/8	内側に検出	
105	14-3	土師器 ⅡD	B-A2	S08	10.9	1.9	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/5		
106	18-6	陶器 ⅡB	B-33	S08	11	2.2	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/2		
107	18-7	陶器 ⅡB	B-33	S08	11	2.8	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/2		
108	18-3	陶器 ⅡB	B-33	S18	12	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/8		
109	18-2	陶器 ⅡB	B-A2	S08	11	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/6		
110	18-1	陶器 ⅡB	B-A2	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁部分		
111	19-6	青磁 Ⅱ	B-A2	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR7/1	口縁部分		
112	19-1	陶器 ⅡB	B-A2	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR7/4	小片		
113	19-5	陶器 ⅡB	B-A3	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	NE/1	小片		
114	19-4	陶器 ⅡB	B-A3	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/2	口縁1/2		
115	19-2	陶器 ⅡB	B-A3	S08	3	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR7/4	小片		
116	19-3	陶器 ⅡB	B	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	口縁1/2		
117	17-7	土師器 ⅡB	B-A2	S08	10	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/8		
118	17-5	土師器 ⅡB	B-A2	S08	11	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/8		
119	17-5	土師器 ⅡB	B-A2	S08	11	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	口縁1/8		
120	17-6	土師器 ⅡB	B-A3	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/4	小片	外側に検出	
121	17-3	土師器 ⅡB	B-A3	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR7/4	小片	外側に検出	
122	17-2	土師器 Ⅱ	B	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	10YR8/3	小片	外側に検出	
123	17-1	土師器 Ⅱ	B	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/4	小片	外側に検出	
124	14-5	土師器 Ⅱ	B-38	S08	21	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/2	口縁1/2	小片	
125	14-6	土師器 Ⅱ	B-A3	S08	21	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	黄緑	7.5YR8/3	口縁1/7	小片	
126	14-7	土師器 Ⅱ	B-32	S08	不明	不明	内：土師 外：土師+青土	青	青	灰白	7.5YR8/4	小片	検出位置不明	

第3表 出土遺物観察表(2)

標本番号	登録番号	群 種	地区	遺構	注 意 (cm)			調査・技法上の特長	計寸	構成	色 調		埋 入	備 考
					口縁	底高	その他				色	調		
127	16-1	土師器 鉢	B-A3	S08	不明	不明		内：ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR5/2	小片	
128	15-1	土師器 鉢	B-B3	S08	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/4	
129	8-9	土師器 鉢	B-A2	S08	不明	不明	2次加工	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR5/2	1片1/2	
130	16-2	土師器 鉢	B-A2	S18	26	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR5/2	1片1/2	半焼状態
131	15-2	土師器 鉢	B-A3	S08	34	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/2	
132	9-4	土師器 鉢A	B-10	SD14	7.2	0.8		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR5/2	1片1/4	
133	8-1	土師器 鉢B	B-D4	SD14	8.1	2.2		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	5YR8/2	1片	埋入
134	33-2	土師器 鉢A	B-12	SD24	7.6	0.7		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片	埋入
135	24-5	土師器 鉢C	B-K2	SD39	8.3	1.4		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	1片1/2	埋入
136	24-0	陶器 鉢	B-12	SD39	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	5Y7/2	小片	
137	24-4	陶器 鉢 (面)	B-12	SD39	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片	
138	24-6	土師器 鉢	B-12	SD39	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	1片	
139	9-2	埴輪 鉢	B-B4	SD10	不明	不明	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	5Y7/2	小片	
140	2-2	土師器 鉢B	A-E7	SD15	6	1.2		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	1片1/4	
141	2-4	土師器 鉢C	A-F7	SD15	7.2	1		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	1片1/2	
142	2-3	土師器 鉢C	A-F7	SD15	7.6	1.2		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	1片1/2	
143	2-5	土師器 鉢C	A-E7	SD15	8.8	1.1		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	1片1/2	
144	2-8	土師器 鉢C	A-F7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	小片	
145	2-6	土師器 鉢C	A-F7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	小片	
146	2-7	土師器 鉢D	A-F7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	小片	
147	2-9	土師器 鉢D	A-F7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	小片	
148	12-6	陶器 灰土系鉢	B-E7	SD15	不明	不明	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	5YR	高径特長	
149	2-1	陶器 灰土系鉢	A-G6	SD15	不明	不明	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR1/1	高径特長	
150	12-1	陶器 鉢	B-L7	SD15	不明	不明	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	2.5Y7/2	高径特長	
151	12-3	陶器 灰土系鉢	B-L7	SD15	不明	不明	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	2.5Y7/2	高径特長	
152	12-6	陶器 鉢?	B-H7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR7/2	小片	
153	6-1	陶器 灰土系鉢	A-G7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR7/2	小片	
154	12-2	陶器 鉢	B-K7	N16	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10Y7/1	小片	
155	11-5	陶器 鉢	B-K7	SD2	12	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	1片1/2	内面にへら状の
156	12-4	陶器 鉢	B-P7	SD15	不明	不明	高径10.6	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/4	高径10.6
157	13-1	陶器 鉢	B-J7	SD15	不明	不明	高径17	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	5Y5/1	1片1/4	高径17
158	5-8	陶器 鉢	A-F7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/6	小片	
159	5-4	陶器 鉢	A-E7	SD15	不明	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	小片	
160	11-3	土師器 茶釜	B-H7	SD15	13	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR7/3	1片1/2	
161	11-6	土師器 茶釜	B-H7	SD15	9.8	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/3	1片1/2	
162	3-1	土師器 鉢	A-F7	SD15	19	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/4	1片1/2	小片
163	5-2	土師器 鉢	A-F7	SD15	20	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/3	1片1/4	
164	11-2	土師器 鉢	B-E7	SD15	20	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR7/2	1片1/2	
165	4-3	土師器 鉢	A-F7	SD15	23	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/2	
166	11-1	土師器 茶釜	B-F7	SD15	30	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/4	
167	36-1	石製品 石	B-F7	SD15	-	-	高径32.5	砂粒が加わっている	-	-	-	-	1/2埋入	
168	37-1	石製品 石	B-F7	SD15	-	-	高径0.5	砂粒が加わっている	-	-	-	-	-	
169	37-2	石製品 石	B-L7	SD15	-	-	高径8-9	砂粒が加わっている	-	-	-	-	-	
170	38-3	石製品 不明	B-C3	SK18	-	-	-	-	-	-	-	-	左側のみ	
171	8-4	土師器 鉢A	B-C4	ps2	7.1	0.9		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/3	1片1/2	
172	10-1	土師器 鉢B	B-R5	ps1	-	-	高径10.4	高径約4方に湾曲をもつ	-	-	-	-	一部分	
173	33-1	土師器 鉢B	B-K2	ps3	8.5	1.8		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/2	
174	33-3	土師器 鉢B	B-K3	ps3	8.1	1.9		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	1片1/2	
175	33-7	陶器 鉢	B-L3	ps4	10	2.8		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	1片1/2	内面が2/3まで埋入
176	34-7	陶器 小皿	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	高径特長	
177	34-5	土師器 鉢	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	高径特長	
178	34-4	土師器 小皿	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	高径特長	
179	33-5	陶器 鉢	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	7.5YR8/2	高径特長	
180	33-6	陶器 鉢	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	高径特長	
181	34-1	陶器 山形鉢	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	2.5Y7/2	高径特長	
182	8-3	陶器 灰土系鉢	B-A5	ps2	11	6	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	2.5Y7/2	高径特長	
183	8-5	陶器 灰土系鉢	B-A5	ps2	11	6	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	高径特長	
184	9-1	埴輪 鉢	B-N2	ps2	10	2.5	高径特長	内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	10YR8/2	高径特長	
185	35-1	土師器 茶釜	B-D3	ps2	26	不明		内：土器ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ、ロクロ子ナ	中々	灰	灰濁	2.5YR8/2	1片1/4	

第3表 出土土物観察表 (3)

## V 結 語

今回の調査では、旧石器時代の遺物及び中世の遺物・遺構が確認できた。以下それぞれについて若干の検討をし、まとめに交えたい。

### 1 旧石器時代

B地区の北半を中心に剥片や石核が出土した。石材はチャートを主原料としており砂岩や頁岩も少量混ざる。宮川の支流の川原にはチャート原石が散布しており、この石材の選択は宮川流域では一般的な傾向といえる。

### 2 鎌倉から室町時代の遺構

出土遺物の検討からこの時代の遺構は大きく次の4期に分けることができる。

#### (1) I期 (13世紀前半)

土師器は伊藤編年第1段階b型式に相当する。遺構はA地区で井戸と思われる土坑SK3が1基のみ確認された。遺物も比較的多量に出土しており、調査区外に住居があった可能性が高い。

#### (2) II期 (15世紀前半)

陶器は古瀬戸編年後Ⅲ期、土師器は伊藤編年第3段階b型式のものが出土している。掘立柱建物2棟(SB41・42)、それに付属すると考えられる土坑(SK20・21・15)、井戸(SE22)が確認された。SB41・42出土遺物はⅢ期に相当するものであるが柱痕跡出土でもあり、SK20・21との関係からこの時期に含めた。これらの遺構の範囲は1軒の屋敷地を示していると考えられる。

#### (3) III期 (15世紀後半)

陶器は古瀬戸編年後Ⅳ期から大窯編年1期、土師器は伊藤編年第4段階c型式のものを中心とする。早い段階でSD8、SE34、次いでSK12・31・32、SD5がつくられた。SK32は墓の可能性もある。SK31は土器が不規則に入っていたことから廃棄土坑であった可能性もあり、またSE34からは使用痕跡のある鍋が多量に確認されている。付近に住居域があった可能性があるが、検出はできなかった。SD5は両端が南に屈曲しており、その長さは63mと

屋敷地の区画を表している可能性がある。SD8ともほぼ直行している。この溝からの出土遺物には瀬戸美濃産の花びや香炉と思われる小片もあり、区画内に居住していた人の階層がうかがわれる。

#### (4) IV期 (16世紀後半～17世紀初頭)

陶器は大窯編年4期、土師器は伊藤編年第4段階e・f型式を中心とする。この時期には不定形で土器も多量に出土しており、廃棄土坑と考えられるSK25が掘削される。SD5の廃絶時期もこの頃であろうか。

### 3 IV期の遺物について

今回の調査区から出土した土師器は、土師器はほぼ南伊勢系の範疇に納まるもので、陶器は瀬戸・美濃産および常滑産のものと考えられる。

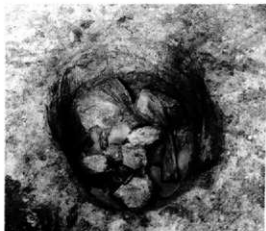
#### (1) 南伊勢系土師器について

器種は供膳具に皿・小椀が、煮沸具に鍋・茶釜・羽釜がみられる。皿はA系統のものとB～D系統のものがセット関係をなしていたと考えられる。小椀は2点のみ確認できた。鍋は中型と小型の2種類がみられる。小型鍋の口縁部は折り返したものが多く、一部に中型と同様に端部をつまみ上げたものもある。その他、半球形鍋も一般的に見受けられる。また、数量的には少ないが金属模倣鍋や口縁端部折り返しのない鍋もあり、バラエティーに富んでいる。茶釜は口縁の直径・長さから2～3種類に分類できよう。羽釜には中型と小型があり中型のものは口縁端部を外側に折り返している。小型のものは端部を方形に納めたものが主流を占める。

#### (2) 陶器・磁器について

供膳具は緑軸小皿・灰軸端反皿(時期によっては志野丸皿)、天目茶碗、平椀、折縁深皿が確認された。貯蔵具には瓶・壺・甕、調理具には捏鉢・摺鉢がある。これらの器種はほとんどの遺構に共通してみられ、当地で安定した供給が受けられていたことがうかがえる。

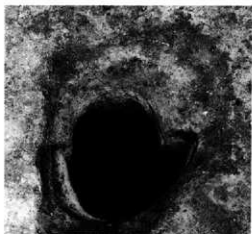




SK3



SE34 遺物出土状況



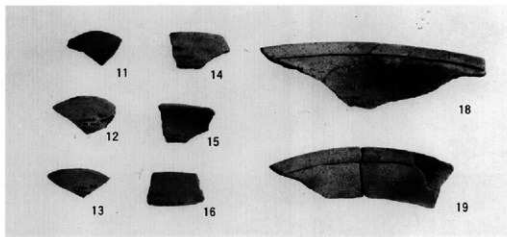
SE22



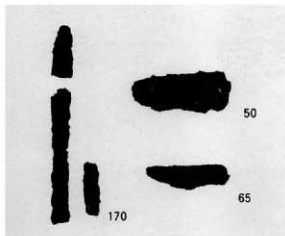
SB 5 石の集中地点



SB41・42、SK15、SK20・21

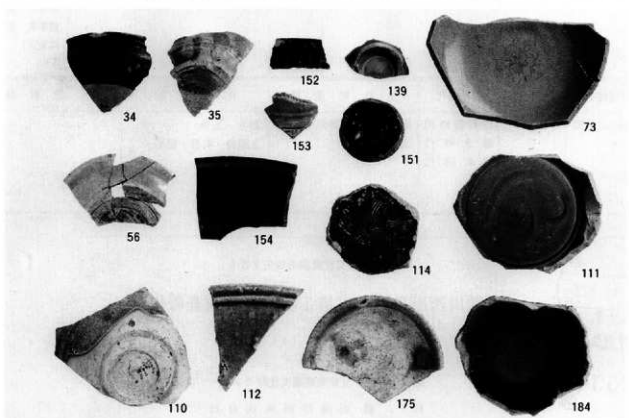
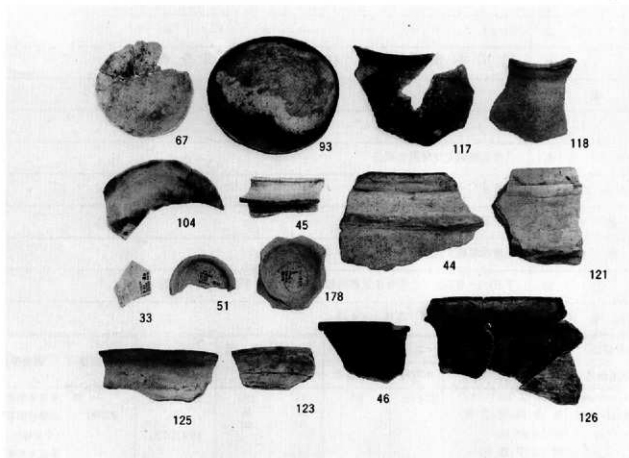


鎌倉時代の遺物



室町時代中葉以降の遺物





室町時代中葉以降の遺物（上段：土師器、下段：陶磁器）

# 報告書抄録

ふりがな	はいかわにし で びい い せき (なかいち) ほつ (つらう) き ほう こく							
書名	鯉川西出B遺跡 (第1次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	168							
編著者名	西村美幸・山本義浩							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	西暦 1998年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 longitude	東経 longitude	調査期間	調査面積	調査原因
はいかわにしでびいいせき 鯉川西出B遺跡	わかさい かい かわかいちろう 度会郡度会町 はいかわにしで 鯉川字西出	24470	91	34° 25' 37"	136° 35' 00"	19970506 \n 19970731	㎡ 2.200	平成9年度県営 ほ場整備事業 (中川地区) 平成9年度県営 ふるさと農道整 備事業 (度会北 部地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な建造構	主な遺物		特記事項		
鯉川西出B遺跡	集落跡	旧石器時代 鎌倉時代 室町時代	据立柱建物・井戸・溝・ 土坑	剥片・石核 土師器・陶器・磁器・ 鉄製品				

平成 10(1998) 年 3 月に刊行されたものをもとに  
平成 19(2007) 年 8 月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告 168

## 鯉川西出B遺跡 (第1次) 発掘調査報告

1998. 3

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 東海印刷株式会社